

図書館総合展 座談会「多文化サービスについて」終了後アンケート 20人

<個人>

日本人も外国人も共に図書館の中で活動できたら、皆が参加しやすくなるだろうと思うと、目黒区の図書館の門戸開放を願うばかりです。

<個人>

「本」を媒介にしていろいろな活動をしている方々がいらっしゃることが分かってとてもよかったです。さらに、図書館の壁は、やはり厚いのだなあとも思いました。お金があれば、ソウルにあるような多言語図書館を作ればいいのですが...。1階はカフェ、2階は子どものため、3階は大人の多読のため、4、5階は各言語の図書、6階に地域日本語教室、7階にプライベート用貸し出しブース。8階はホール。9階事務所兼自宅（笑）というのが私の妄想です。この妄想の実現は無理だろうと思いますが、今日伺った本の読み聞かせなどを参考にして現在の活動に役立てようと思いました。今日は本当にありがとうございました。

<大学関係者>

ありがとうございました。大変勉強になりました。

<国際交流協会関係者>

以前クレアの研修で豪州に研修に行った時に、図書館で移民のための無料の英語教室、PC教室、宿題のサポート等があり、また、各言語の書籍コーナーや雑誌等も充実しており、書籍等が見当たらない場合は、中央図書館のようなところから取り寄せるようになっていました。研修の最後には参加者の簡単なプレゼンがあり、和歌山の図書館にもそうした機能を持たせたいと発表しながらも、何もできていないことに気づきました。ただ、日本語教室の空白地域解消の取り組みの一環で生まれたばかりのNPOが海南市の図書館で日本語教室を展開するのに全面的に協力することを約束しているので、その図書館に対しても今後働きかけが必要だと気づかされました。和歌山県国際交流協会に勤務しておりますが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<学校図書館関係者>

国際交流協会で、外国ルーツの子どもたちの居場所づくりをしています。毎週絵本タイムを設けていて、日本語の絵本は日本人が、多言語の本は保護者や子どもたちに読んでもらうようにしています。ただ、図書館とのつながりを持ちたくて、市立図書館に、外国ルーツの子どもたちの図書館見学、多言語絵本の購入、多言語読み聞かせの会の実施などを提案しています。図書館見学は受け入れてもらいましたが、本の購入と読み聞かせの会は、予算とコロナが理由で難しいと返事してもらいました。指定管理であることも原

因のひとつかもしれませんが、図書館との協力関係をすすめていくことの難しさを感じています。今日お話いただいた事例を聞いて、とてもうらやましいと思いました。何か、一歩すすめるヒントなどあれば教えていただきたいと思います。また、学校図書館でも多文化サービスをすすめてほしいという願っています。学校司書の方にアンケートを取りましたが、多言語の本を集めることは必要と考えても、そこを交流の場にするという考えはあまりないことが分かりました。学校図書館も多文化交流の場になるよう、先行事例を紹介したいと考えています。

<社会教育関係者>

大変良い企画に出席させて頂き有り難うございました。各図書館での事例に触れることが出来、勉強になりました。少し紹介されたルビを付加したり読上げるソフトも参考になりました。図書館では賑やかにしても良い海外のお話や、親切で詳しく解説などを行う事が、違法な翻訳になってしまう等、難しい問題が絡むのですね。とにかく有難うございました。

<大学関係者>

どのお話も実践者ならではの説得力のある内容でした。ありがとうございました。

<個人>

それぞれの分野で関わっておられる方々のお話を伺うことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

<個人>

地域の図書館の在り方について考えるきっかけになり興味深かった。

<国際交流協会関係者>

矢部さんと山野上さんのお話が特に印象的でした。ただ、地方都市である菊池市の状況と東京、大阪をはじめ大都市の状況の違いがあり、ニーズの違いが大きいと思いました。本市では、ほとんどが技能実習生で、ベトナム人が6割近いというのが現状です。貴重な機会を頂き、有難うございました。

<個人>

多言語絵本の活動が日本人にとっても多様性にふれる学びの機会であることがよくわかりました。図書館が外国人の家族にとって信頼できる存在であること、活動が広がる場であることがよくわかりました。同時に、図書館だけではできないことがあることもわかりました。とても勉強になりました。Rainbow の活動を応援しています。

<個人>

在住外国人の日本語学習に関心がありますので、豊中の事例はとても参考になりました。図書館と他機関との連携の必要性を感じています。

<大学付属図書館関係者>

大阪府の箕面市立船場図書館の管理運営をしている大阪大学附属図書館の職員です。船場図書館は大阪大学外国語学部と隣接していることで、文化芸術国際交流拠点にできないかとの市立図書館の考えがあり、その一歩として参加させていただきました。多言語翻訳電子ブックのお話、読み聞かせ会のお話、国際交流協会が図書館を交流の場として選んだお話、それぞれに興味深く拝聴しました。特に豊中市は隣接地（私は豊中市在住です）であり、山野上さまの取り組み、山田先生のお話は身近なものだったのだと知りました。また教えていただくこともあるかもしれません。どうかよろしくお願いします。

<国際交流協会関係者>

貴重なお話をありがとうございました。図書館でなされている多言語共生・サービスが現業に生かせないかという目線を持って参加しておりました。国際交流センターに勤務しており、私たちが役に立てることのヒントを頂いたと思います。子どもたちの感受性が成長していくときに、質の良い絵本を通して沢山の国や地域のことばを聞いたり、挿絵をみて感じることや知ることの大切さを改めて感じました。

<大学関係者>

登壇者の方々のお話をとても興味深く拝聴しました。それぞれの方の取組が緩やかにネットワークとして繋がっていけると、支援の届きにくいところにも支援が広がっていくような気がしました。貴重なお話をありがとうございました。

<企業図書館関係者>

どの方のご発表も凄かったです

<NPO 法人関係者>

これからのバリアフリー図書館には、必ず、外国人住民も利用しやすい図書館作りが必要だと思います。多様な文化・習慣、言語、宗教があることを受け入れ社会である我々市民も学んでいかななくてはいけないと思います。いろんな人、団体、情報が繋がっていくことを願っています。

<学校図書館支援員>

誰でも利用できる図書館が本を借りたり読んだりするだけ場所だけではなく、地域に住

んでおられる外国人と日本人の出会いの場所であり、多文化交流の場所にもなることを、願っています。 図書館も多文化や多言語サービスを進めておられるのですが、外国人からのメッセージの中にありましたように、外国人のかたに知ってもらえる、情報が届く 手だてが必要だと感じました。 図書館利用者と図書館の方との会合に、地域の外国人のかたが、参加されることはあるのでしょうか。 それが、特別なことではなく、もっと 気軽に、外国人のかたから、直接、声を聞ける機会があればよいのにと感じました。 今回の外国人のかたからのメッセージを、たくさんの 図書館のかたに聞いていただきたいです。メッセージを集められたこと、とても素晴らしいことだと思います。 わたくしは、小学校の学校図書館支援員をしておりますが、まずは、英語の絵本だけではなく、在籍している児童のお国の絵本を置いてみたいと思いました。 外国語の絵本の入手は難しいですが、多言語絵本の会 RAINBOW の多言語電子絵本文庫を 学校図書館に置きたいと思っています。電子絵本を、小学校図書館の蔵書には、まだ できませんが、先生がたに、知っていただければと思います。 外国につながるお子さんのため、そして、多文化共生の社会で育つ日本人のこどもたちの ため、教育活動のなかに取り入れてくださることを願っています。 今回、様々なお立場のかたのお話を伺い、たくさん、学ばせていただきました。 最後になりましたが、お礼を申し上げます。ありがとうございました。